

斗え日本人!

34年ぶりに蘇る。
幻のドキュメンタリー

構成

演出 河辺和夫 / 藤田繁矢(敏八)

イラスト原画 橋本治

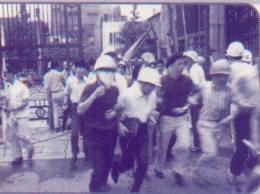
撮影: 大津幸四郎 / 義江道夫 / 飯島実 / 八木勲

1969年 / モノクロ / スタッフード / 74分 / 35mm / 製作・配給: 日活

にっぽんをゼロに戻せ!

1968年、夏 — 革命前夜の東京。

「にっぽんのゼロ地点はここにあった」—— 梶木野衣 (美術批評)



「前の会社に3年半いたんだけどもう将来の希望がもてなくなっただけです、今から他の会社行っても同じじゃないかと思っただけから」

自衛隊員



街中で武力衝突を繰り返す、デモ隊と機動隊。飛び交う催涙弾と火炎ビン。東大生の活動家は、疑問を抱きつつ運動へ足を突っ込んでいく。新宿で無目的にさまよう写真好きのフーテン少女は、浮遊しながら「本当の自分」ではない苛立ちをぶつける。国を愁うわけでもなく自衛隊に入った青年は、世間の騒ぎを横目に見つつ厳しい練習に没頭する。そんな揺れる若者たちの思惑は、熱狂的なお祭り状態と化し暴走してゆく。この激しい闘争は、新時代を生むための痛みなのか、それとも…。

当時の若手監督4人がそれぞれの「日本の若者たち」をドキュメントする筈だった…

70年安保反対闘争・学園闘争に揺れる1968年の日本を四人の新人監督に撮らせよう、という企画が日活で突然持ち上がった。藤田繁矢(敏八)、河辺和夫、浦山桐郎、斎藤光正の四監督が、全共闘活動家やフーテン、あるいは自衛隊員などを追いかけていった。しかし、1968年10月に突然の中止命令。浦山、斎藤両監督は降りたが、プロデューサーの大塚和と藤田、河辺監督は密かにフィルムを完成させた。時が経ち、1995年の山形国際ドキュメンタリー映画祭で突如上映。現存しているフィルムに、浦山・斎藤監督の担当部分は入っていない。製作当時は危険な影響力を重視され公開されず封印されたが、21世紀の現在、闘うことを忘れた日本人に突きつけられたエネルギーな問題作である。

企画: 大塚和 / 友田二郎
構成・演出: 河辺和夫 / 藤田繁矢
撮影: 大津幸四郎 / 義江道夫 / 飯島実 / 八木勲
録音: 長谷川良雄 / 佐藤亨
効果: 杉野友治郎
編集: 丹治睦夫 / 岡安イ / 井上治
製作: 渡辺昇
助監督: 小原宏裕 / 岡田裕
音楽: 佐藤允彦
1969年 / モノクロ / スタンダード / 74分 / 35mm

【1968年の主な出来事】

ベトナム反戦運動
マーチン・ルーサー・キング師暗殺
パリ五月革命
全学共闘会議(=全共闘)結成
米大統領候補、R・ケネディ暗殺
三億円強奪事件
ウォールホール銃撃事件
三里塚闘争
「2001年宇宙の旅」公開



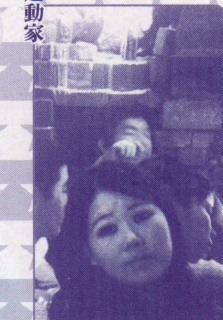
「何もなかったよ。俺には。学生運動なんてクソ食らえた。そんなもの何もないんだよ」

学生運動家



「だから何でもいから自分をみつけたい」

フーテンの少女



今秋、伝説のレイトロードショー!!

特別鑑賞券 ¥1,300 絶賛発売中 (当日一般 ¥1,500 / 学生 ¥1,200)

※劇場窓口、阪急・阪神・HEP FIVEの各PG、チケットがあにてお求めください。
※本篇開映後のご入場はご遠慮ください。
※上映日程/タイムテーブルにつきましては劇場にお問い合わせください。

テアトル梅田

梅田ロフトB1 TEL.06-6359-1080

<http://www.cinemabox.com/>